

## 緊急連絡

○サルに出会った場合は、次の事項にご注意ください。

一般的に野生のサルは、こちらから何もしなければ襲ってくることは、ほとんどありません。

サルに出会った時には、おどかしたり、刺激しないで落ち着いて、その場から立ち去ってください。

サルが市街地や民家近くで暴れたり、出没した場合には、窓など戸締りを確認して、下記へご連絡ください。



連絡先 高取町役場 まちづくり課 TEL0744-52-3334  
樞原警察署

### 《サルの対策について》

- 野生のサルは、ペットと違って人に慣れていませんので、むやみに近づくと襲われることがあります。遠くでサルを見つけた時は、そのままサルから見えないところまで離れてください。
- 近くでサルを見つけた時は、サルと視線を合わせると威嚇されたと思い、人が視線をそらせた時に襲ってくる場合があります。サルの目を見ないで、静かに立ち去ってください。
- エサを与えることにより人を怖がらなくなり、いったん人に慣れてしまうと、家に侵入してくるなど、地域全体に被害が発生する恐れがありますので、エサは絶対に与えないでください。
- 軒下に干しているタマネギなどの農作物を目標に民家に近寄る場合や捨てた食べ物をエサ場と勘違いして近寄る場合など、結果的にサルにエサを与えていることと同じこととなりますので、十分注意して下さい。
- サルと出会ったときに、大声を出したり、物を投げたり、棒で追い立てたりすると、サルが興奮して人を襲ってくる可能性がありますので、サルを刺激しないで、落ち着いて、速やかにその場から離れ、安全な場所に立ち去ってください。
- サルの対策として柵や網などは殆ど効果はなく、「人は怖いもの」「民家の近くは怖い場所」とするとサルに危険と認識させることが重要であり、地域が協力して根気強く追い払うことが一番の近道です。  
エサを与えない、エサ場にさせない、大きな音をたてて追い払うなどはサルにとって効果的ですが、むやみに刺激してケガを負わされることがないように、見つけられた場合には、安全な場所に立ち去っていただき、役場や警察へ連絡してください。



## 《サルの生態について》

ニホンザルは、学習能力が極めて高い動物である。

どんなときに何をすれば農作物を守れるのかを知るためには、まず知恵比べの相手であるサルのことを知っておくことが大切です。

### 生態

- 雑食で果実や虫などを好む。肉や魚は好んでは食べない。
- 活動時間は日中で、夜間は行動しない。
- エサを求め、群れで行動する。  
ある程度決まった独自の行動範囲の中で、周期的に移動する。
- 群れは、メスとその子どもを中心に構成され、十数頭から百頭を越える。増え過ぎると分裂することがある。
- オスは、オトナになると群れから離れ、別の群れに入ったり、離れザル(単独・オスの群れ)として生活をする。
- 交尾期は、年1回で秋から冬、出産期は春から夏。2～3年に1頭の割合で出産するが、農作物を食べ、栄養状態が良いと1～2年で産むようになる。寿命は20歳程度。



### 特徴

- 運動能力に優れ、木登り・ジャンプは大得意。
- 視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚は人間とほぼ同じ。
- 記憶力は抜群で、一度味わった恐怖体験は忘れない。ある出来事が起こった場所や状況も覚えている。
- 学習能力は高いが、習得するまでに時間がかかる。エサは慣れながら覚えていく。
- 土地への執着は深いが、群れ同士のバランスがくずれたり、環境に大きな変化があれば新しい土地に適応する柔軟さもある。
- 新しいものや状況、場所を警戒するが、いったん慣れると大胆に行動する。  
「人慣れ」が進むと追い払うのは難しくなる。
- 長距離を走るのは苦手なで、安全な場所から離れることを嫌がる。

### 被害状況

- 主に果樹、野菜、水稲、大豆、イモ類が食害される。特に、春と秋に被害が多い。
- 群れで加害するので、短時間でも被害が大きくなる。
- コンニャク、トウガラシ、シソなど辛味や苦味のきつい農作物は好まない。